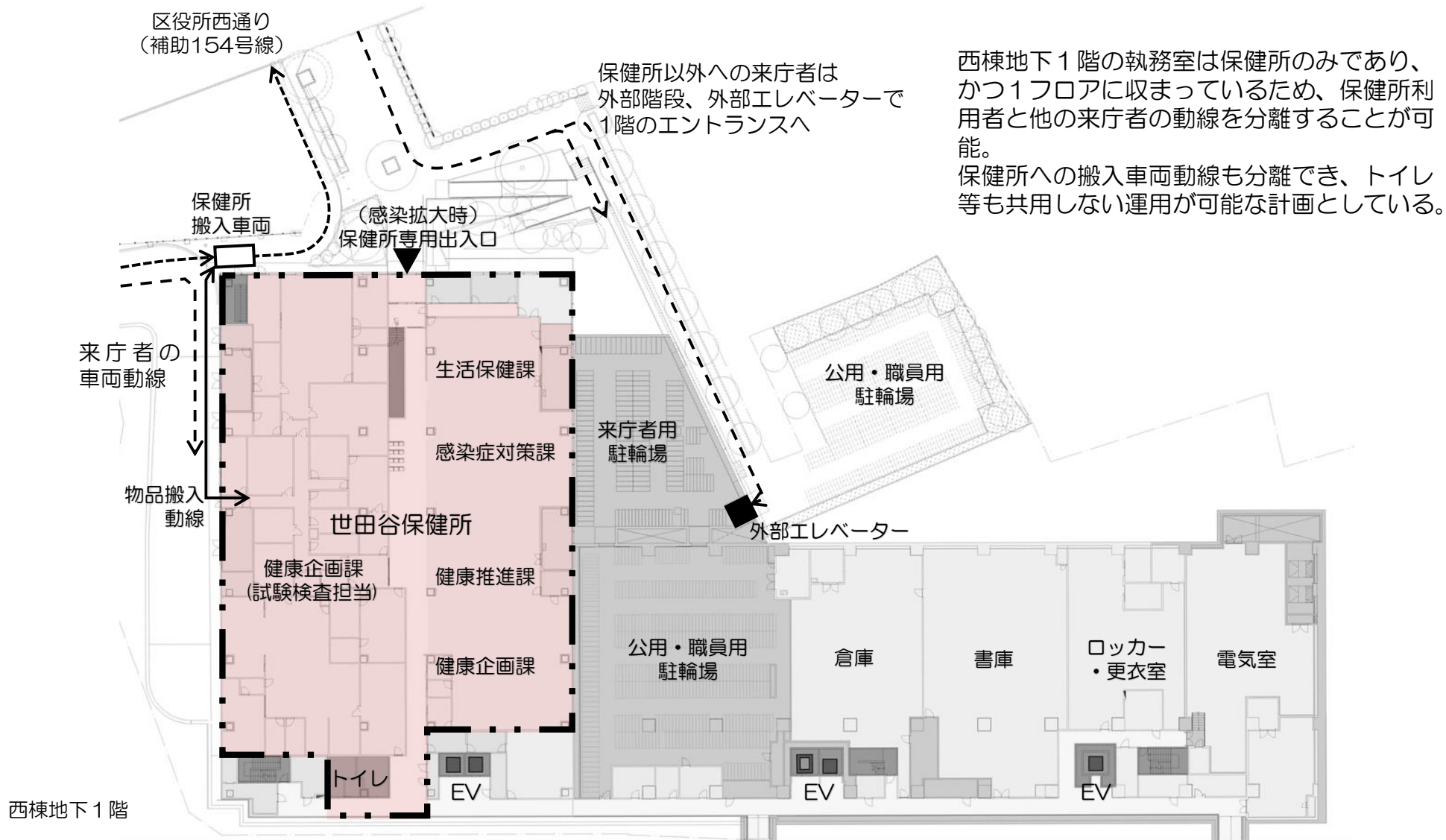


世田谷区本庁舎等整備 区民の安全・安心を支える拠点として ー新型コロナ対策からみた新庁舎ー

保健所機能の独立性を確保し、感染症拡大時の緊急対応と、通常業務の遂行に資する。

新庁舎の西3期棟のワンフロア（地下1階）に保健所のみを配置し、感染拡大時は区役所西通り側のエントランスを保健所専用とすることにより、保健所と庁舎利用者の動線を明確に分離することができる。



## 世田谷区本庁舎等整備 区民の安全・安心を支える拠点として ー新型コロナ対策からみた新庁舎ー

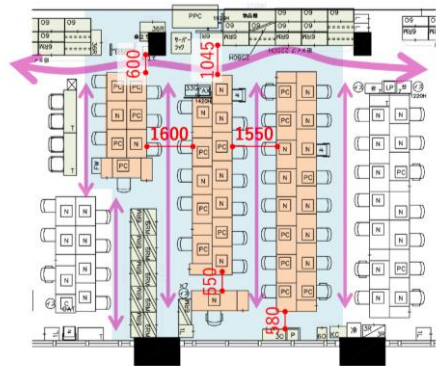
3密（密集、密閉、密接）を回避し、職場内感染リスクを低減し、感染症対策窓口や通常業務の継続に資する。

## ポイント1

ユニバーサルデザインに配慮した適正な執務面積を確保し、執務室における職員間の距離を適切に取り密度を下げることで、職場内での感染リスクを低減する。

## 現庁舎

密集回避が困難のため、感染者発生時に業務継続が不可能となるリスクを軽減するため、課内の係を複数班に分けて、他係と混在させるなど工夫している。

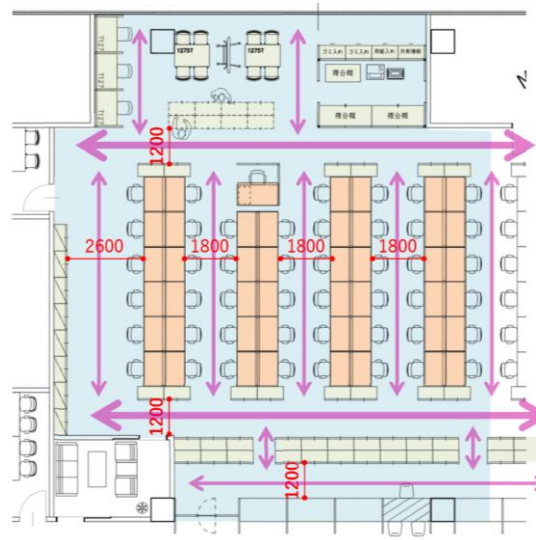


職員一人当たり庁舎面積  
9m<sup>2</sup>/人

※図面は現庁舎・新庁舎とも同一縮尺。

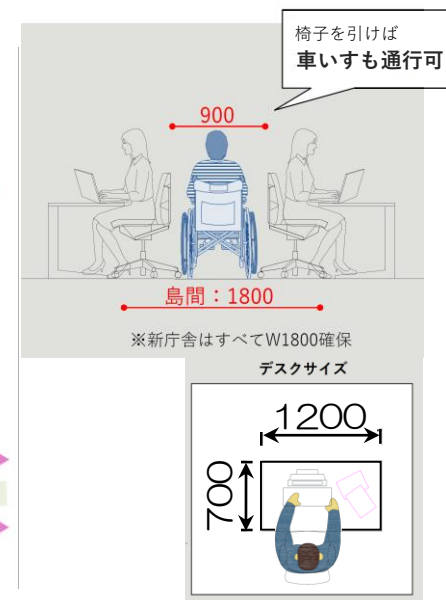
## 新庁舎

UD動線に配慮したレイアウトにより、職員間の距離を適切に取り、感染リスクを低減できる。



職員一人当たり庁舎面積  
18m<sup>2</sup>/人

※図面は現庁舎・新庁舎とも同一縮尺。



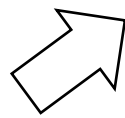
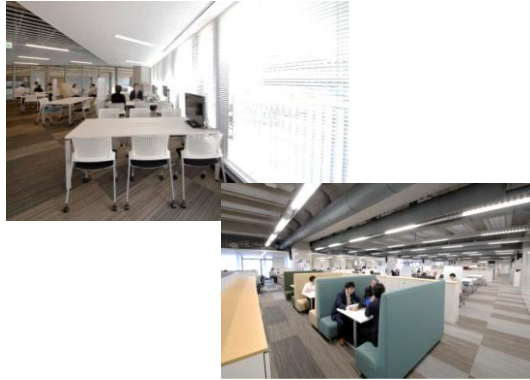
# 世田谷区本庁舎等整備 区民の安全・安心を支える拠点として ー新型コロナ対策からみた新庁舎ー

3密（密集、密閉、密接）を回避し、職場内感染リスクを低減し、感染症対策窓口や通常業務の継続に資する。

## ポイント2

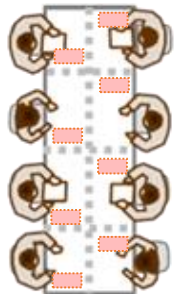
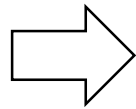
大型天板の事務机と可動式個人ワゴンを採用したオープンフロア、ユニバーサルレイアウトにより、低密度化やフロア内での分散配置への移行も容易

### <オープンフロア、ユニバーサルレイアウトのイメージ>

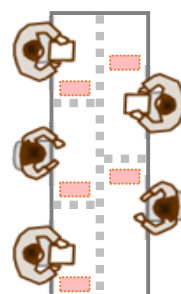
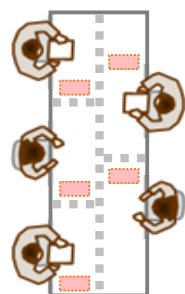


執務サポートエリア  
の打ち合わせ  
スペースも活用

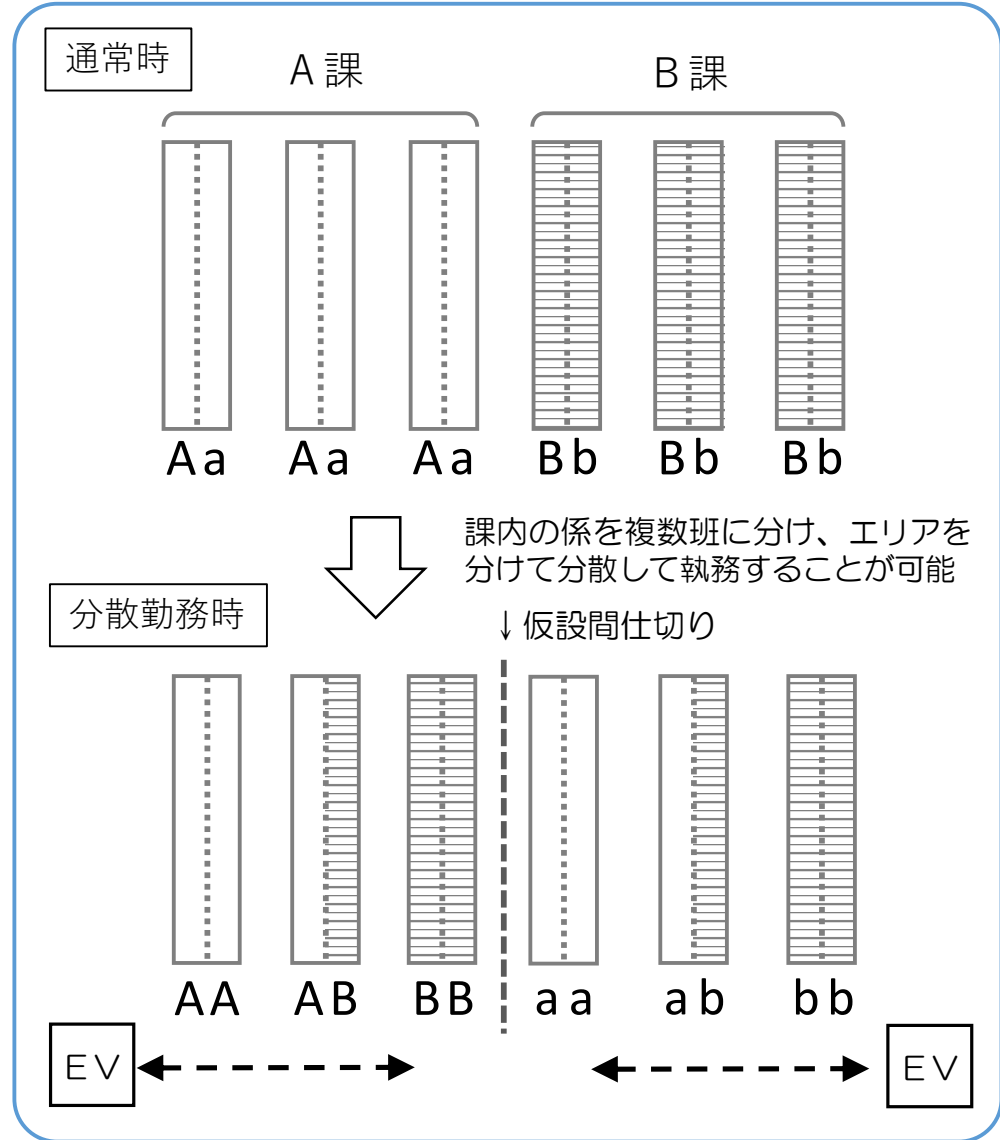
ワゴンの移動  
のみで分散  
配置が可能



■ ワゴン



在宅勤務や職場分散  
により低密度化



世田谷区本庁舎等整備 区民の安全・安心を支える拠点として ー新型コロナ対策からみた新庁舎ー

3密（密集、密閉、密接）を回避し、職場内感染リスクを低減し、感染症対策窓口や通常業務の継続に資する。

ポイント3

無線LANやモニター、プロジェクター等を設置し、支所・まちづくりセンターや他部署等とのオンライン会議にも適した執務室や会議室。



無線LANを敷設した、壁のないオープンな執務エリア。執務サポートエリアを活用してオンライン会議も可能。

無線LANやモニターを設置する小会議室。プライバシーや情報セキュリティ等に配慮したオンライン会議も可能。

無線LANやプロジェクター・スクリーンを設置する中・大会議室。大規模なオンライン会議も可能。

新庁舎 西棟5階（部分）

## 世田谷区本庁舎等整備 区民の安全・安心を支える拠点として ー新型コロナ対策からみた新庁舎ー

3密（密集、密閉、密接）を回避し、職場内感染リスクを低減し、感染症対策窓口や通常業務の継続に資する。

## ポイント4

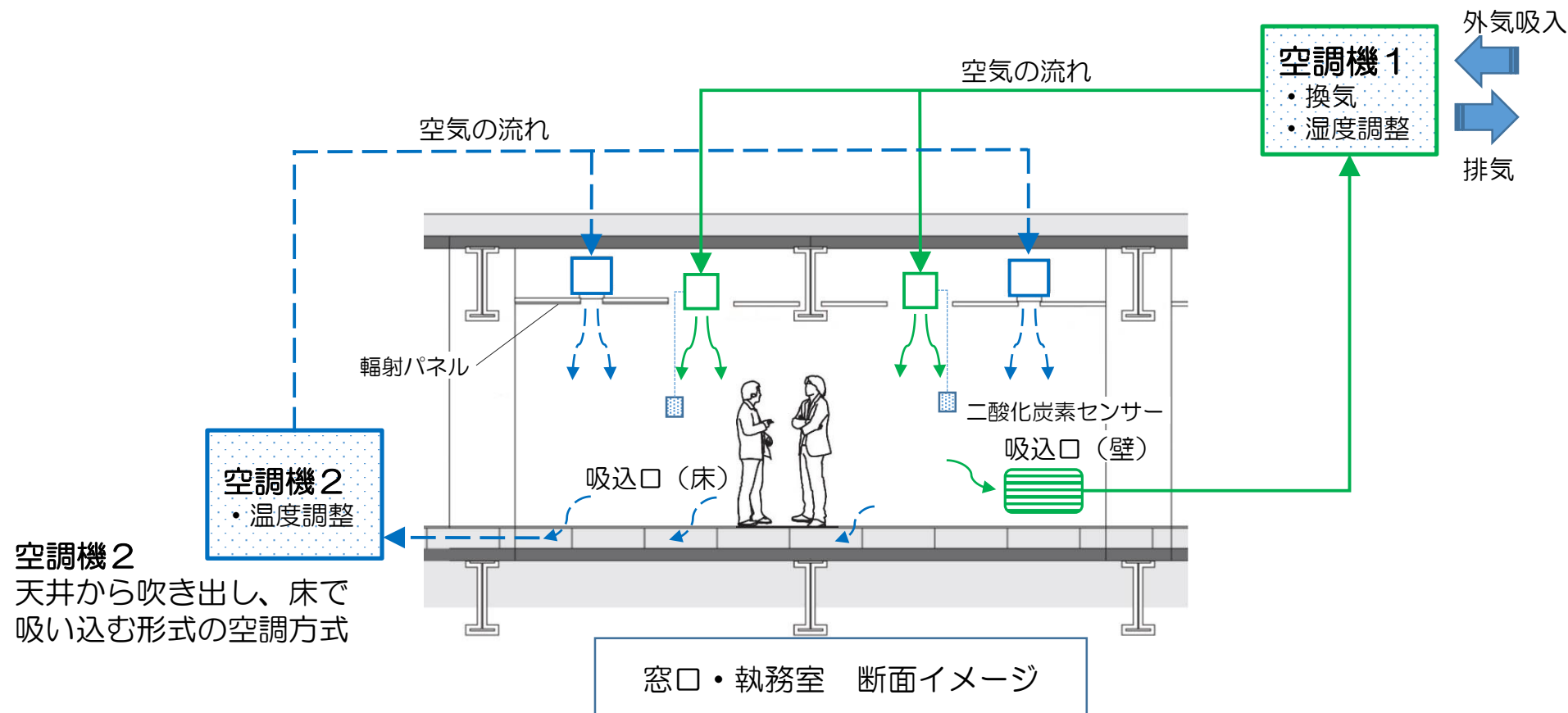
窓口や執務空間の換気量を自動制御する換気システムの設定値を切り替えることにより、外気の換気量を増やすことが可能。

## 【通常時】

法令に規定される室内の二酸化炭素濃度基準（1000ppm）を満たすよう換気量を自動制御する空調機1により、外気を取り入れ、湿度調整された空気が、風量調節され、室内に供給される。

## 【感染症対策時】

必要に応じ、室内の二酸化炭素濃度の設定を下げることで、換気量を最大運転に切り替えることが可能となる。



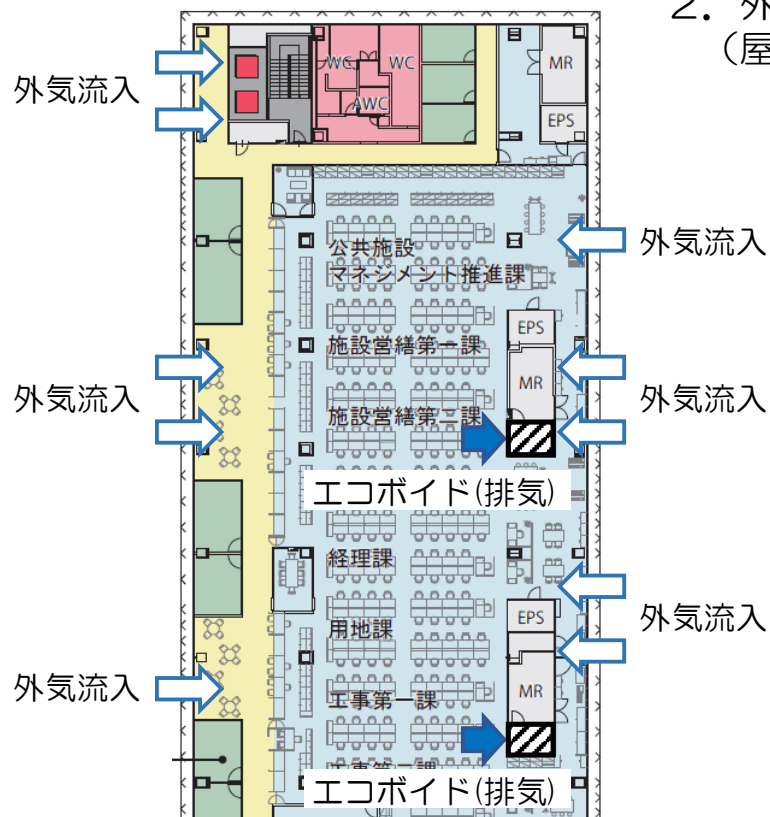
# 世田谷区本庁舎等整備 区民の安全・安心を支える拠点として ー新型コロナ対策からみた新庁舎ー

3密（密集、密閉、密接）を回避し、職場内感染リスクを低減し、感染症対策窓口や通常業務の継続に資する。

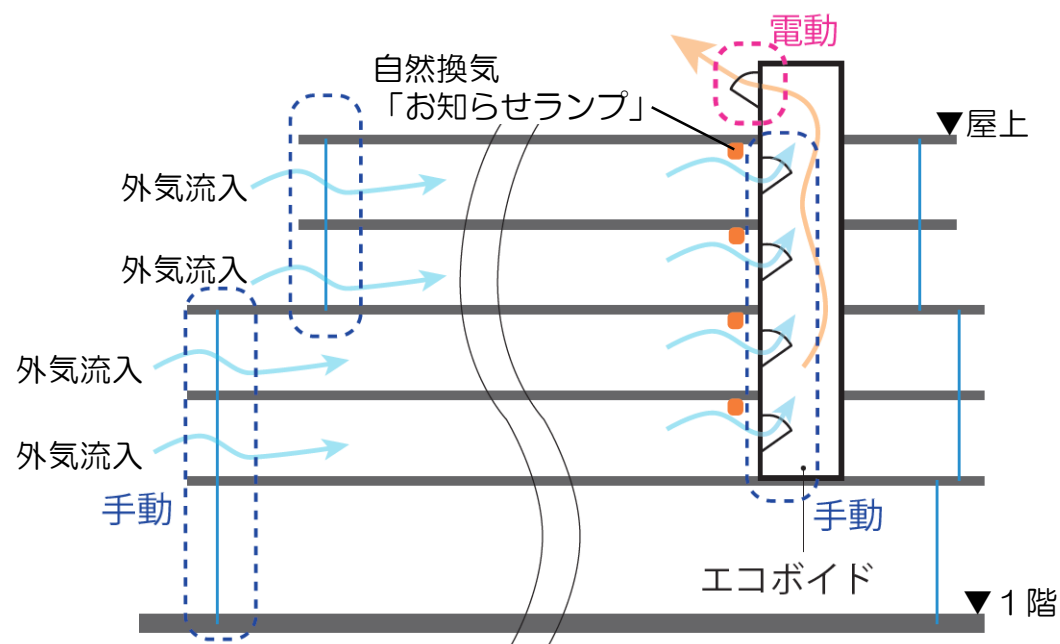
## ポイント5

エコボイドを活用した自然エネルギー換気（重力換気）により、無風時も積極的に外気を取り入れることが可能。

1. 室内外環境（室内外の温度、屋外風速、降雨状況）をモニタリングし、適切な換気のタイミングを「お知らせランプ」により知らせる。
2. 外壁に面した窓とエコボイドの排気用の開口部を手動にて開閉する。  
（屋上の排気用の開口部は「お知らせランプ」と連動し自動開閉）



新庁舎 東棟5階（部分）



エコボイド（断面イメージ）

世田谷区本庁舎等整備 区民の安全・安心を支える拠点として ー新型コロナ対策からみた新庁舎ー

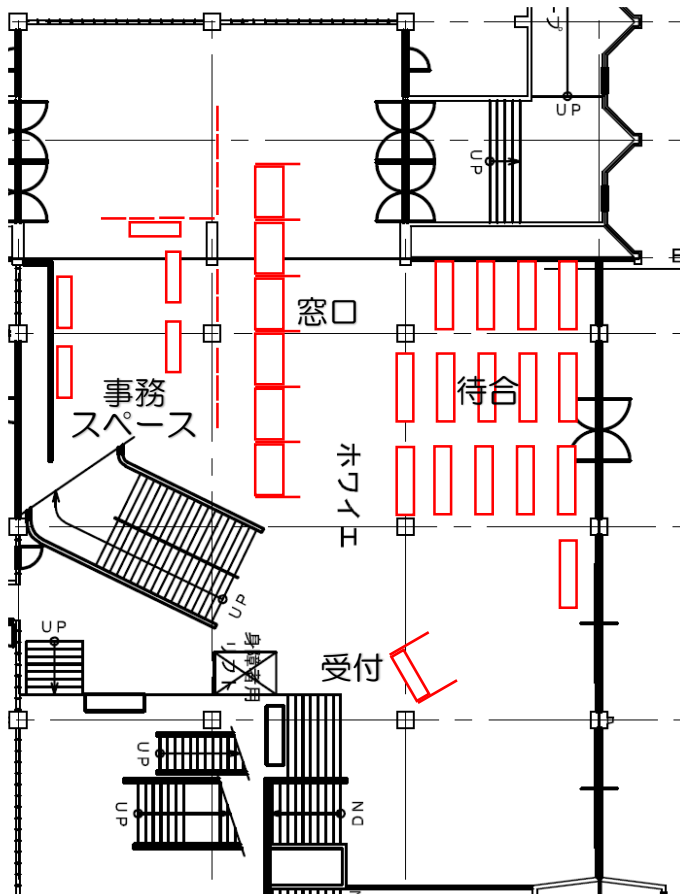
緊急な窓口開設や応援職員増にも、迅速に適応し、区民の生命、健康を支える。

事例1

臨時的な窓口（特別定額給付金窓口など）の設置が必要な場合には、会議室を窓口、事務スペース等に転用が可能。

現庁舎

区民会館ホワイエを活用して、臨時窓口を設置

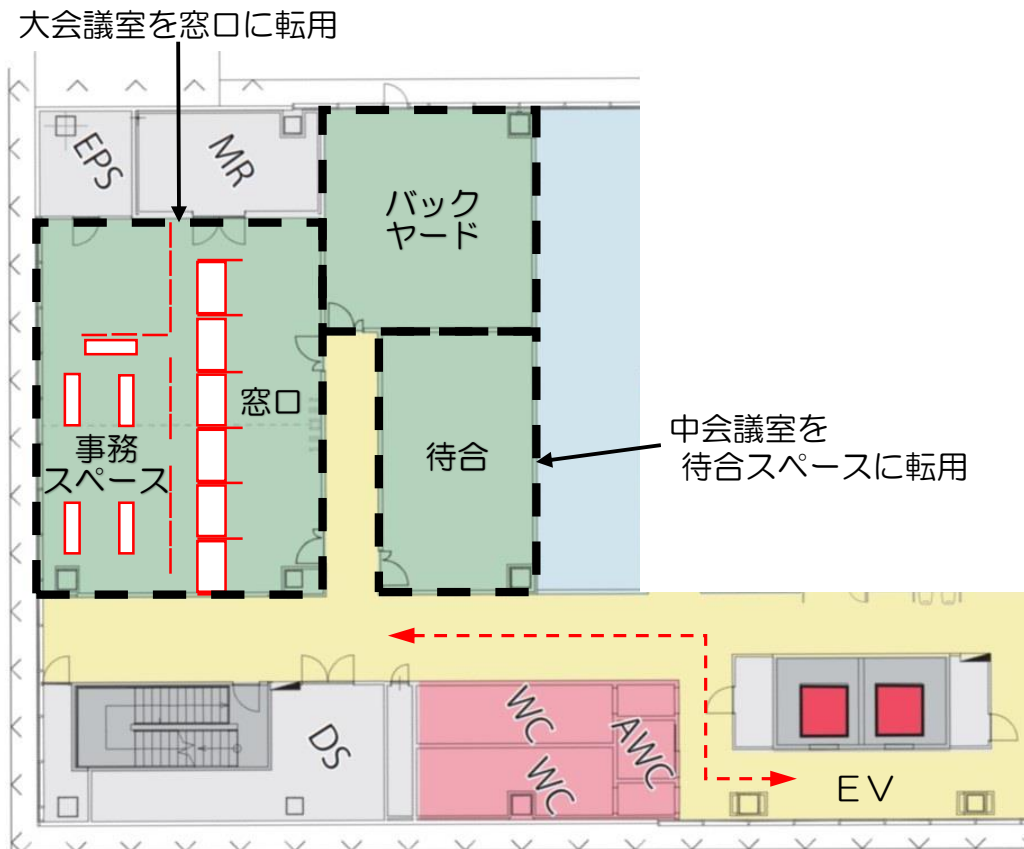


区民会館1階

※図面は現庁舎・新庁舎とも同一縮尺。

新庁舎

無線LAN、OAフロアが整備された会議室を窓口等に容易に転用することが可能。



西棟5階

※図面は現庁舎・新庁舎とも同一縮尺。

## 世田谷区本庁舎等整備 区民の安全・安心を支える拠点として ー新型コロナ対策からみた新庁舎ー

緊急な窓口開設や応援職員増にも、迅速に適応し、区民の生命、健康を支える。

## 事例2

臨時的な職員や外部委託従事員の増員に対しても、大型天板の事務機の活用や、サポートエリア、会議室等を執務室へ転用することにより、応援職員等の執務空間も確保が可能。

## 現庁舎

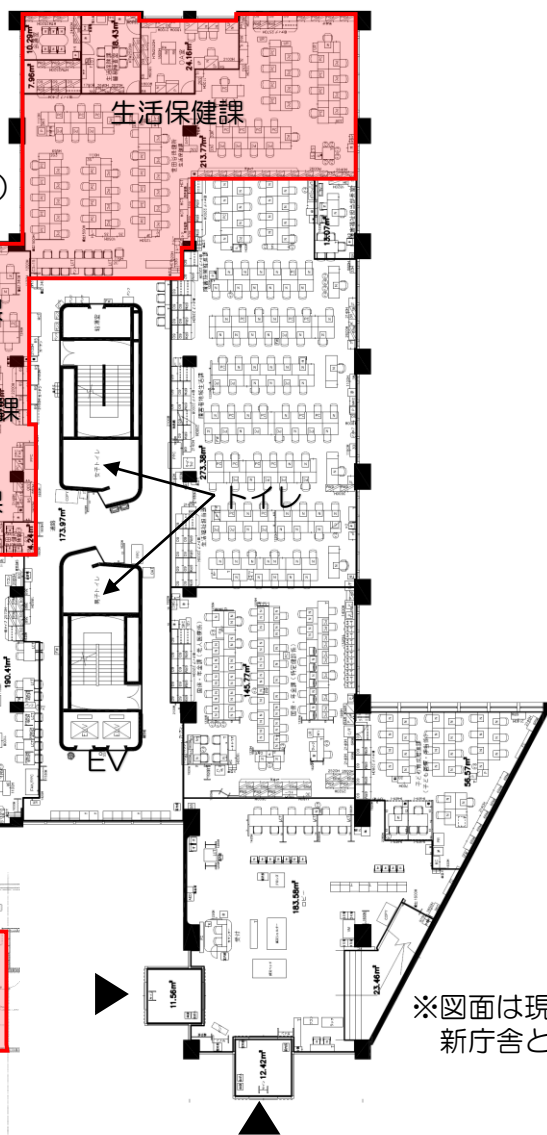
執務面積：約650m<sup>2</sup>  
(区民会館地下1階の  
臨時執務スペース含む)

第二庁舎1階  
：約490m<sup>2</sup>

※健康企画課（試  
験検査担当）は、  
MKアースビル

区民会館地下1階  
(旧レストラン)  
：約160m<sup>2</sup>

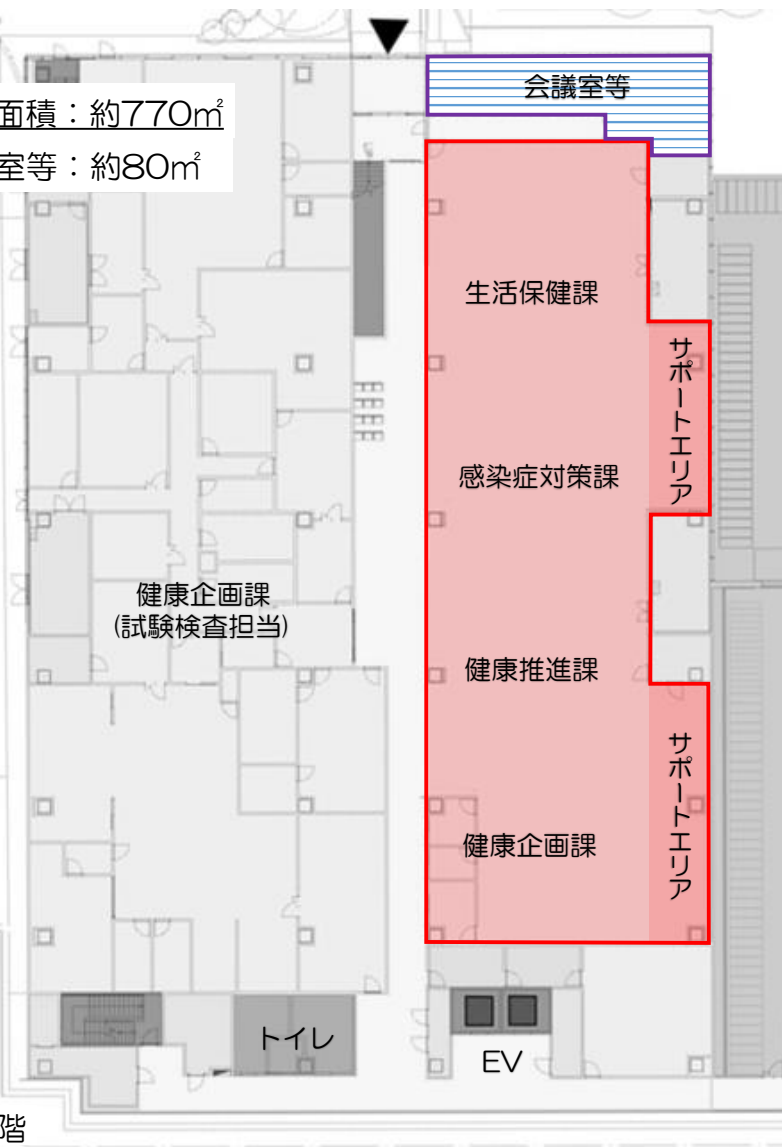
臨時執務スペース



## 新庁舎

執務面積：約770m<sup>2</sup>

会議室等：約80m<sup>2</sup>



※図面は現庁舎・  
新庁舎とも同一縮尺。

西棟地下1階

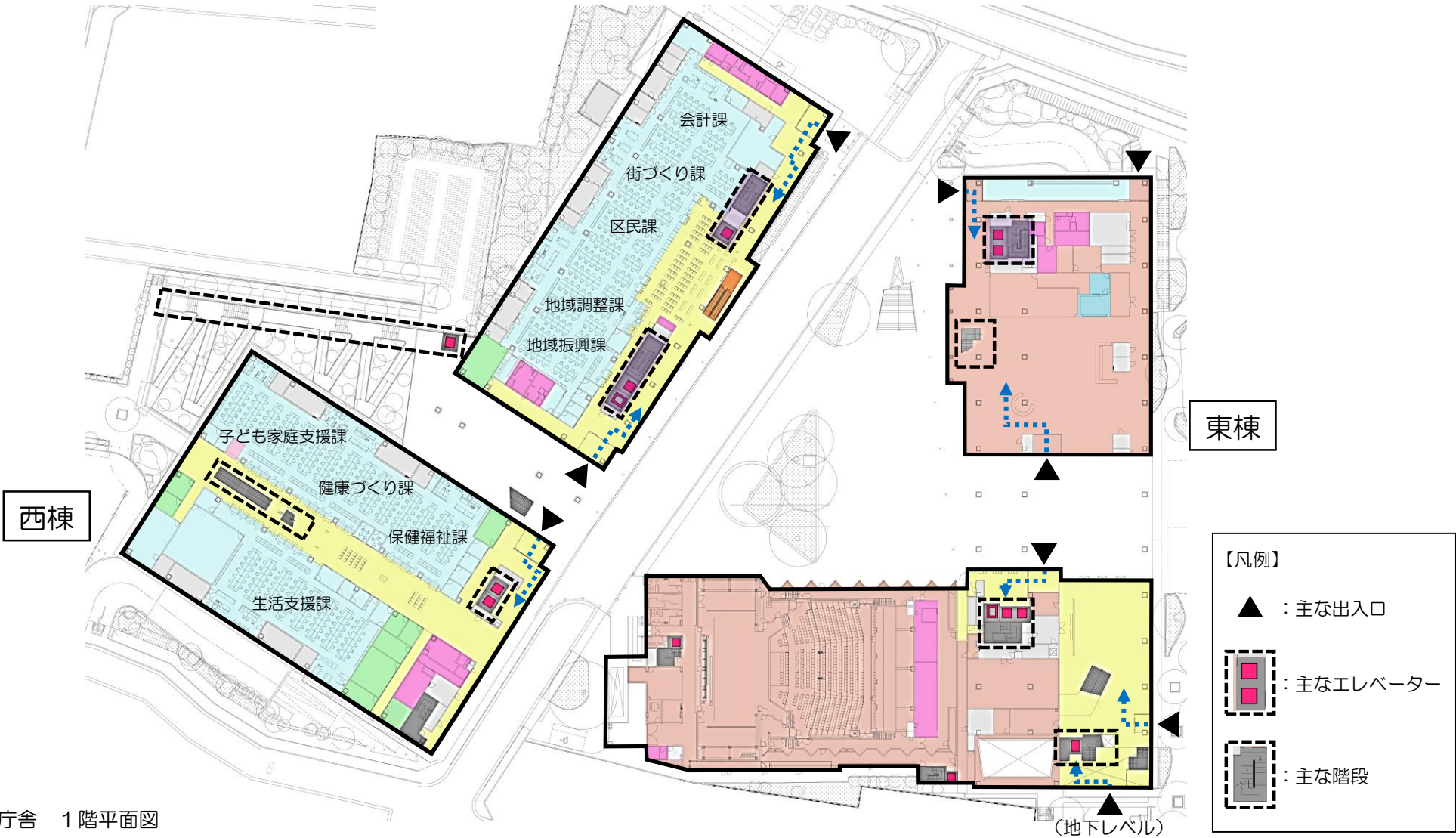


世田谷区本庁舎等整備 区民の安全・安心を支える拠点として ー新型コロナ対策からみた新庁舎ー

緊急な窓口開設や応援職員増にも、迅速に適応し、区民の生命、健康を支える。

ポイント

東棟、西棟それぞれ2か所以上の出入口、エレベーター、階段により、来庁者動線を分散しやすいため、密集状況が生じにくい。



新庁舎 1階平面図